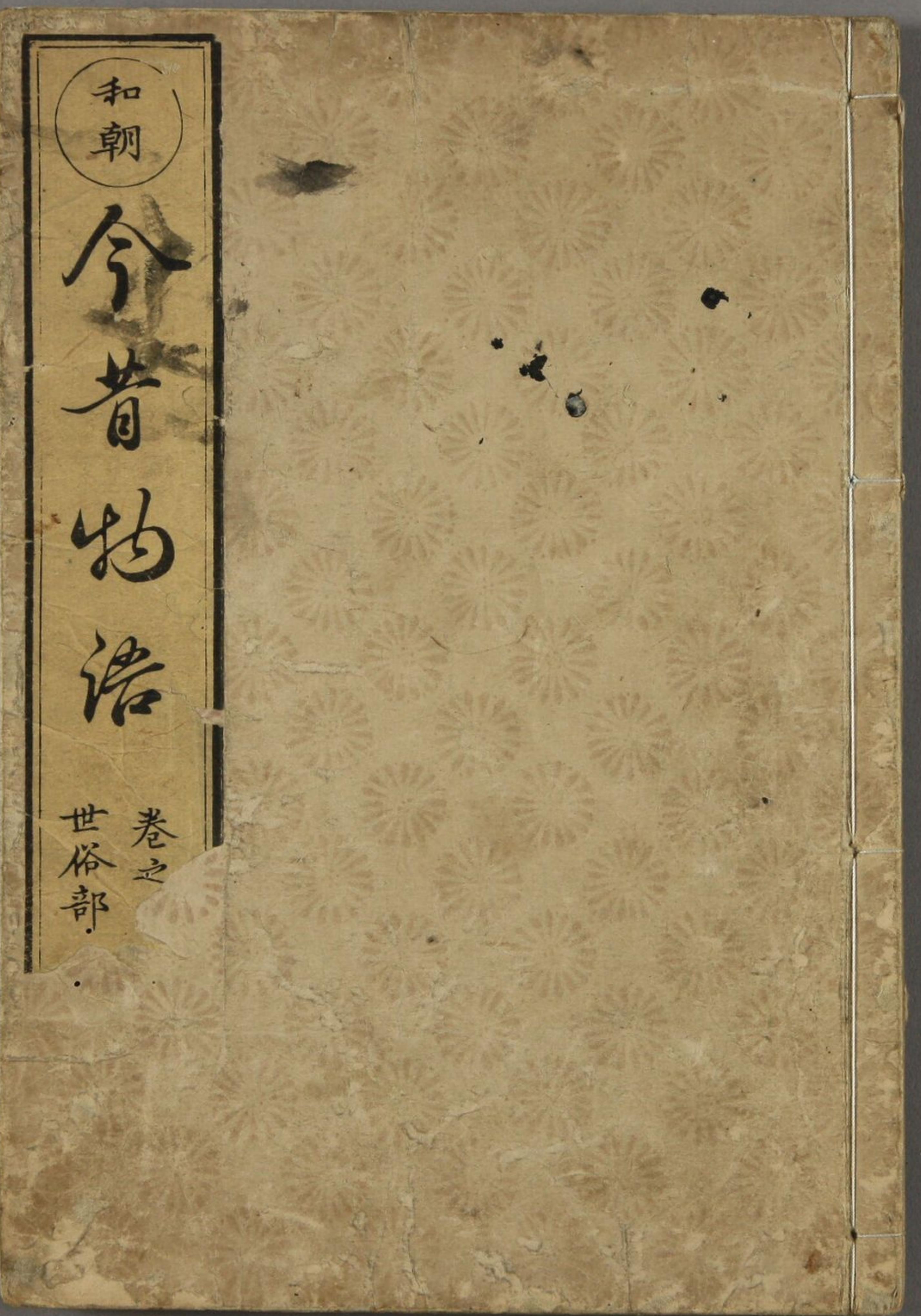


2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80



今昔物語

倭六目録

○世俗傳

- 一 平維茂郎等被殺語
- 二 維茂討藤原諸任語
- 三 平貞盛欲害醫師語



今昔物語 倭部六

○世俗傳

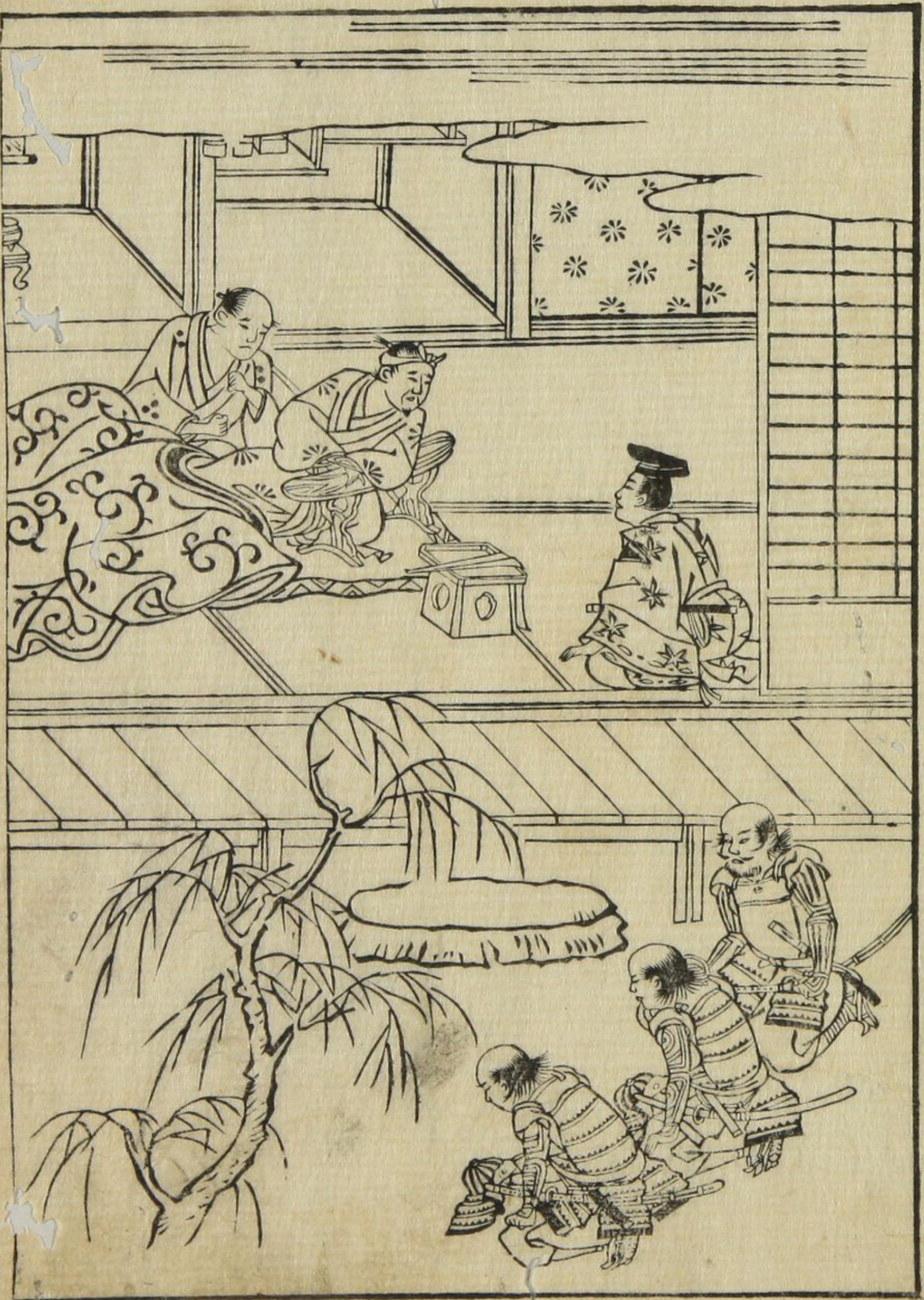
一 平維茂郎等被殺語

今へもくし上総久平兼忠といふ者あり。平貞盛が矛
乃繁盛（さかのり）が子なり。兼忠上総（くわさき）久平とて其團（ぐるみ）より有（あつ）る
余立將軍維茂（よしむら） 兼忠子貞盛養子信濃守（しなののかみ） 带刀（おび） 徒五位上鎮守府將軍
萬志（まんじ）が子として陸奥國（むつ）より居（ゐ）て、又萬志（まんじ）が子久く
對面（たいめん）をばけ上総久平兼忠（くわさきくぱくわんちゆう）みたりて、ひつともればよろこび
きくにまことひにほんてあれば、萬志（まんじ）をそむけて。其
傍（わき）とひれもて侍（まつり）と云ふは、維茂あらわ、萬志（まんじ）のわ

あり。しかる。されば。外より半纏をして。側よほどの侍
男に腰をさして。外から。維茂内に入坐つたま。
年老ひ奉事ともかく。うと。維茂が。奥へくる郎等
の中には。家臣者。どり四人へ調達を負て。おもて。皆
うきびたり。其弟一は。居する者。おもて郎めどり。年老多
ア大男の鬚。かづつを。腰を。わざわざ氣ゲにて。とおと
くら。じくに。あも綾を。あく男に。まくふくを。かく
中と向が。かく。と。腰を。あわの。お島みこを。海うえ
を。討う者。され。おねね。いき。せられ。しき。ひくどう
あらん。と。す。男まで。げ。ア。又が。く。は。と。ひ。す。

侍れど。故と。それとも。あく。おと。作れ。は。自分で。りて
歎と。け。ゆ。よ。ひ。て。涙と。う。ぐ。き。ま。る。維茂の物
や。ど。く。て。日。暮。れ。ば。聞。不。よ。行。く。を。あ。み。それ
れ。宿。よ。り。て。物。く。い。所。の。そ。常。れ。用。ふ。と。れ。ば。枕。上。て。あ
い。の。あ。る。と。そ。て。侍。け。り。朝。縁。甲。胄。と。金。布。ア。太。番
ニ。ま。れ。り。ほ。り。て。幕。を。と。通。く。わ。す。れ。り。ゆ。て。は。り。九
月。晦。日。の。ま。る。れ。ば。あ。く。に。無。を。あ。う。を。家。人。と。ど。と。へ
調。度。を。負。て。あ。ら。か。ぐ。わ。う。づ。ア。と。え。畫。か。ぎ。く。み。ー。あ。
は。り。り。お。ひ。ま。う。み。と。ば。お。い。絵。ぐ。さ。う。ま。す。あ。る。ふ
う。の。小。男。ハ。よ。が。歎。を。く。い。て。今。日。に。あ。う。と。ぞ。ひ。き。ね。ば。

じきに腰刀のそとどり。さて情よし。おひでちあ
みが居宿よりて。家人をう含めとおもふ。おぬご伊
豆うげゆき猝りて内よつて。お敷をすらして経仕のやう
ありてれ。希にうち壁のあづて屢々く親乃款と称
ゆきとされば。天道も良くおそれまづべ。奉茶を送
うち候てお令へ。人をうまくはせうる。聞くお東
京はおぬもううだ寝うる。おア男ひもんをび
ごーぬ。おぬもううだ寝うると。おア男ひもんをび
ようて。喉をうながかか。歩引されど。かくへりへち
こえり。おわすて後かわく起されば。即ちた御を



食ふとひそて寄てうるふ血まみれにひりて死附し。ま
而もうそをあく。よつて人のぢればわきへた方と
ねうそを飲ひつづくよあうせどりもがく。又へ門かにうる
あふものあり。即ちよりあくらくよう者をすまと
也。あくよはゆくもうがひくろがのくおきをあきそ。
あくよはくもあくひくうがのくおきをあきそ。年
いだくよんがふは晴と本乃あくとひもく。年
ごくうじろ翁とくらとほくまつとくゑふは。運
りつさきひくわたりひきくは。はくれきまくれく横
きくつうをうそ。うそとくらわのト。は。維茂是と

國あや大よおどりまさ。是ひくは我惡うり。左國とかく
わんへ是非す。ちくは國とまく家へとくせーへ。わ
すくはくはく。やすげぬへくはく。事あり。
其者のよ小侍うてす殿ははく。おうり。奴うふるたる
べとそ館うゆうて無忠みじうひ。维茂う石興
くふ郎をく。おもくうそれ往る。此國よまでゆる
やくはくはく。维茂う極くち極く。是ひ極へれ
ぞくへ作す。一とせえ外うるを。射殺うる者。乃
すれ小男殿う作す。室くひまくびく作べ。うま
きをく向く。くわくわく。是が國とたちふえ

この男のあみたゞべ。且故に販賣^{そんばい}せし酒
をあみたゞべ。且故に販賣^{そんばい}せし酒
ふ者よといへば。外日かたりて夜^よは常よハ
け時も側をまどはへば。奴^{やつ}が販賣^{そんばい}す
通よア^アてがる。あゆきまわらとくひらひれ
今朝朋輩^{きみどり}どもがつをまえべ。其男の夜^よも賠^{そぞ}す
刀を銃^とあらや諸^{しろ}くちり。ひじもとれづれづ
不^よるうごひれ。あらぬふうとのひくとくとのあ
い。實^{じき}其男のあみたゞべ。まわらひけたひ
ゆふ内^{うち}くまでまうとべ。無^むなへひゆうけたひ

あむすらうとのえぢり。お魚^{うお}を販賣^{そんばい}してゐ
る。そこらでやへやへすべき。販賣^{そんばい}するをば
天道もゆうておる。あらぬふうとつまてせらうとば
魚^{うお}を賣^{うり}。讃^{さわら}とば討^うす。あん人をうと。大畜^{おほ}公^{こう}經^{こう}
あらざれば。維茂^{いも}あくやてうとらひてかくゆうて
其坐^{その}とまじて。ばあす運留^{うんりゅう}益^{ます}とて。陸奥^{りくあ}ま
くらうう。そのうちあるがくらう男。三日をど
きておあく。おばけにあらうおはまかたう。おほ
ひ男人^{おほひんじん}よもよまれて。づやきおよみれがづくね
りゆく病^びつまておされば。おもあわゆたしやまへ

あら。親乃歎うるべと例せり。せらむしげ男をも
一人にて。あらざれ都人を隊々ぬりわゆりに入る。
角やく討得あらひ。寧々天道のゆき経て故ありと
廢あらむ。かくけくそくをも。

二 平維茂討藤勇諸任語

今ハレア 實方中將

正四位下 陸奥守 定時男

陸奥守

モニシテ。實方公達されば、國內の若
者。ひすが容合をして、昼夜館のまじめに車をも
うらう。其は固ゆよ平維茂と。事あり。見ハ母は守
平貞盛。母在守船も盛少。士縫々無志が嫡子

ナリ。貞盛ちふるゆきありて。物の多くもつて
おもむれちあつて、維茂へ給ひ年。あらうされば。すみ易
い。かくられば。字は餘五郎とつひき。一書曰貞
盛。繁盛子曰兼忠。乃は是維茂父也。天慶年中。貞盛與藤秀卿。誅
戮凶賊平将門。功名蓋世。仕陸真守。兼鎮守府將軍。以甲東方
而擇族類勇敢者。養之。る義子。以序其齒。有太郎次郎以下至
十郎之行。而復叙其餘。維茂生而剛勇也。然年弱。當第十五。故
名之曰餘五郎。貞盛卒後。留成員列。州民皆知其健強。

附よ若承法任とよぶものあり。

足ハ田魚を秀卿とつひき。の孫ナリ。字は澤勝
四郎とつひき。按大系圖。秀卿。平常。公脩。兼光。頼行。兼行。師
然秀卿者貞盛同時之人也。維茂者貞盛之養子也。以此考之。以澤俣為秀卿五代之孫者。恐非正說
ナリ。田富の事とあるとして。おのづまんうえられ

ともいづまきよとくろ一理あらばアトとまへ因アリて

あらぶきあきうけとべ。是の旅とりへりうとねんへある

うちれ因司三年とつて失く。藤實方長徳四年十一月十三日於任因辛去其

後ひまびよつてどりうふ増よゆて。今氣の用をまわ

アトちり。雙方牒をほりへ日紙定ちく。づきにあそ

まうあくと紹経を。維茂が方れり無と千人計。法住

が方は千人方をれば。法住大勢に歎して。先

じなれ我とやうすとて。常陸國へ旅されば。維茂因て

さればこそ我ノモ向ひちてんやとのぞうをあらわす。

あらうおもひをあらげくこそあき。程々くあれ

ハ因車あらあどりそそき本因ようくうら。澤勝かく。
スラマサナキテ。きく。維茂が館アレ押あら。はーも十
月初日れ世附ぐらうたる。金五う居をる館のあひだき
なう池あつて。水鳥れ居アレ。あくろんさつだてけくせ
さう音をひき。金五うもくきて。郎をみゆじて。水鳥れ
はうい。細な負馬アレ。轡轔。檣よのぢれどつとくよ
足せんつづひ。の郎をみゆじて。南野よ軍士四百町
み充候して。まつまよりて作ヒ。金五うしと支あら
ひて。次般スヤセ。被く。若士もくぐく教して。もう

あそねば。運命今自にさひまむくよしとす。度て
一防とぞべとて。欲の下せあるべと遙す。四騎つて橋を
突くゆきをう。家の木彌庭をうるが。よしと公徳を
も。よびうせんよへるど。維茂今ハ千にてもよび
すりとぞひて。妻女 土佐守藤 原季蘭女 と幼児湯定 左備門
太輔後

五位下系 とんふを落くとのよみゆくは。よしとゆきに
やけとぞうて下知し。將者と勧とつて。よびうの
人ねむしげ。あなたも死ふをぐとくれうべ。一同くみ
入てあよ火をほきて煙くらひのどきゆうかぶひ一人も
残らず射外す。あわせて火印をうべ。射殺され煙殺さ

まつる石数八十餘人ぞ方をひづまう鎌立をと引
くべくよしとぞ。防をよよ煙尾をうそともしと。物猫
ごんのぞれどよへられ。余五もつだくへりん。寛あ
はゆふぞ育んと筆端して。ひ魚をうすけて帰る。

太君 名好則後 五位下 輔政 といふ君の件よ立つりぬ。太君の種電
守楊惟通子 輔政 がよから。まん長じて道が守をうめ。
一生欲をかくして万々よ枝請て有まう。次膝が妻が
足たり。附り太君今次膝て。一戦よ勝利をゆきい
し。ひつき事あり。どうじと被がの黒毛をひおが。
あよこちちがうはとへゆきの無ざなほゆ。鎌立が首

りゆうの石を鞍のそりにあらへたるゝと。ば。
は腰がひく。鳴牛れ牛のあつて居る。屋よこえあざ
であらじふ。第五のおりあく下知て。さんまをわめぐ
あえとうけんがおなづれば逐る者一人をとふと
射出斬ふを焼殺して居る者男女あり八十餘人。う。ね
獨どくらひど。余立もいだくへう坐。何の故よき
ちた焼首が取る。ごそ。病もかげひ佐ひどとも
主教よつ。大君同てのあととろあらうげよたさひ
きづ。それども翁がどうまい。余立が死とれて。ばねじ
生りやうと。鞍のそりにあらへたるゝは。すとくひ

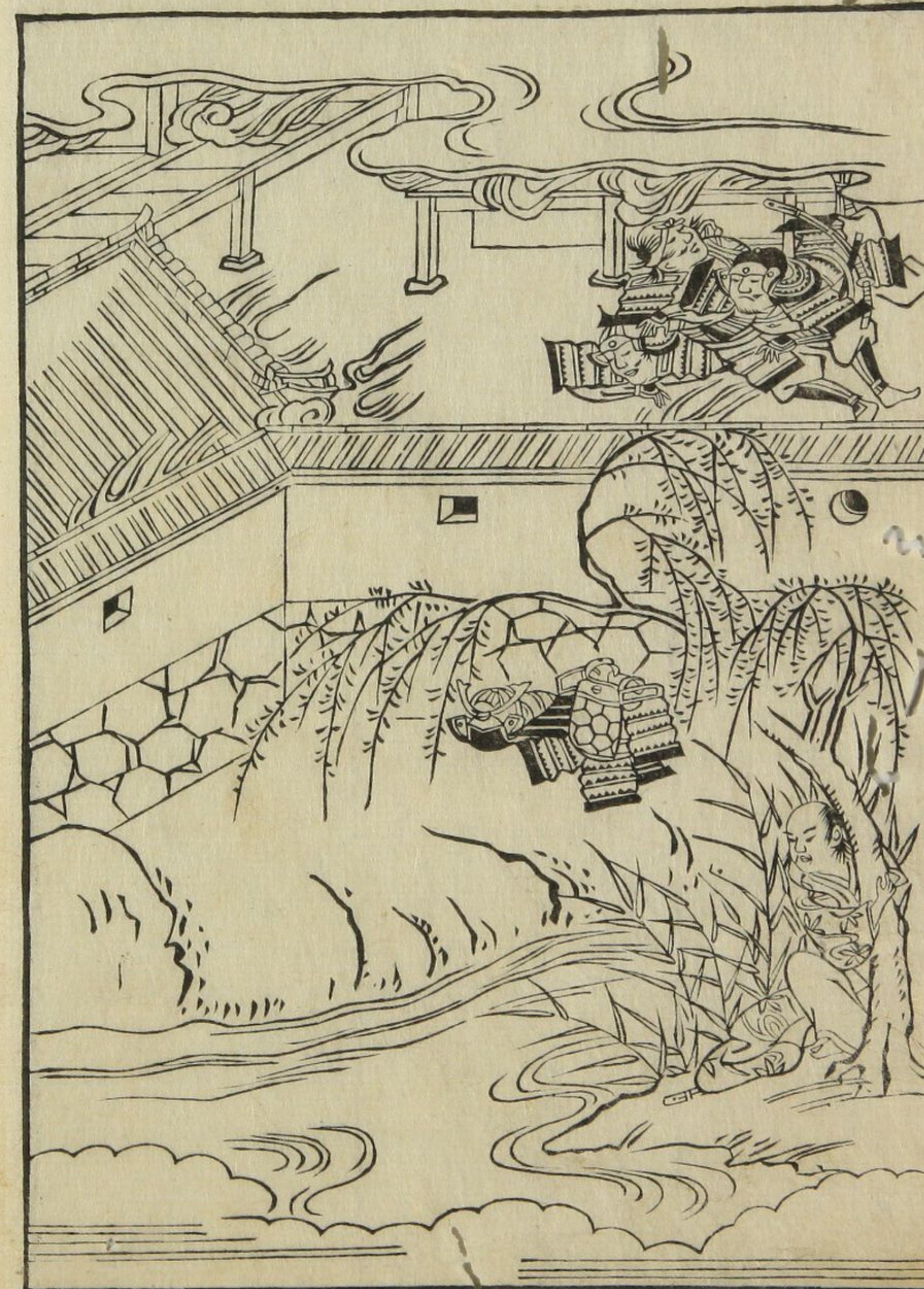
居居せら。我の餘立が黒雲城よりおれがゆく。や。そこれ
立とおれ。飯酒と食とおれど。宿すら不まで。そく
し。身廢立とてとけられく追立されば。は腰へあくれ
かくねする翁されとお多ひ。るべまでふ六ナ町引
て。平くらる野れ東へふ。あく小川あくす。馬よりやり
あ室へやあくと。調などとてあく。大君が許よ
て大株ナ有。翁ふ六桶。糧を取れ。までねくらる。
往住よつじて。酒をあくと。おがくのじ。宵
うちはきて。翁ひて。喉へあく。からくまく。空腹
酒を飲んで。翁されば。おど醉歩く。馬の薦。宣

も多くからうば。鞍下し轡をねらて。猪縄をうつみて
まうり。去程よ餘五へ絶矢をういて。敵をもやひを射
こなしけまども。まわつまて。おわよされり。敵人を殘
すはれられべ。まくまくと益すとぞして。まくまく甲
冑をそ。女の手する襖を引ひだて。繫と却
て女のかみよまひて。おちだりとがく。おて。煙のゆうち
ぬきれて。あがおくにゆせり。西の方から大河よへて
葦れまきりするかふよりよ。楊の根とまくとてか
づみあく。次第が勢うつて。かへる事四十町もゆく。し
くの程よ。余立が即等の。かくわらをもみ六十人を

見て。燒るる鬱と見て。泣くかじと泣く。うのと
余立河の中より。我へ是れゆきぞとさげびらば。毛毛足
をみて。馬よりまろび落て。うでてとくとねびたる
けらふやくば。余立河よりあづとられべ。高もどと各
あら。余立衣を着物と含めて。渟よひく。我をもうあ
らは。うづく余立をすうと。はらひ。うづく。ふ
げりと。うづく余立をとくとくと。うづく。うづく。
ひそひそと。うづく。郎をもぐづく。かれづむへ四百
人。乃づく。萬方へとび。ス寧へたり。射揚とがま

わ。と後日。軍船をもつて、戰ひよ。餘立
思ひよ。まつて、いそく。うときのつとく。一理あつとく。
我やすすみに。今夜あひゆ。そ燈も。われく。まく。ば
今まで。今す。す。んや。が。の。ざ。れ。か。ら。は。ま。く。よ。あ。い。
ほじか。さ。か。る。取。り。あ。く。ま。た。へ。我。め。び。
し余。され。ま。だ。そ。き。へ。後。よ。軍。船。り。ま。そ。難。つ。ぞ。
我。へ。キ。一。人。か。り。も。れ。が。あ。よ。し。と。一。ま。射。け
て。あ。ん。と。ら。ふ。を。食。れ。く。へ。あ。う。び。う。じ。と。り。の。控。て。
甲。船。公。私。一。ろ。ん。轍。う。そ。そ。み。ゆ。そ。ぶ。即。ち。だ。も。作
す。と。ま。く。作。そ。そ。な。よ。立。て。と。む。に。き。う。ま。立。ぐ。い。そ。

け。次。勝。へ。終。お。り。氣。に。ま。わ。て。其。ま。の。あ。ち。う。櫂。劍。の
所。あ。て。馬。の。轍。や。う。轍。と。と。て。寝。く。ら。う。我。家。
す。と。う。つ。あ。づ。が。く。う。じ。寝。く。う。の。ゆ。ひ。の。あ。よ。御。兵。
し。よ。か。し。千。万。人。あ。う。と。し。物。の。身。に。ま。ぬ。じ。今。日。く。う。べ
り。の。と。れ。を。う。期。と。ご。ざ。と。り。ひ。と。し。く。う。う。其。自。乃
生。え。り。緑。乃。襖。う。櫂。棠。花。を。ア。衣。孤。衣。夏。モ。の。行。騰
と。履。後。蘭。を。玄。花。矣。伝。矢。世。也。御。よ。乃。保。ニ。益。る。相。縁
と。負。て。握。を。わ。う。う。れ。革。而。く。て。走。く。う。ひ。お。お。あ。ち。方
事。て。革。を。ひ。馬。の。七。す。ぐ。う。に。て。進。退。一。物。う。う。に。ま
く。う。う。う。も。う。う。う。絶。馬。七。十。條。人。お。無。世。俗。人。お。今。百。余



人をうかがへて次跨うがひぬるよりて退ひりとて。大馬おほまがふ
乃ちあと通らん。人をもせて年維茂としむらとぞ。賑夜燒付
よめひと。例く逐おとてはうるすりとひをうる。大署おほしょひとて
よる。維茂やゑうよ。即ちニミナげり。公櫛おみのの
やまと。きを見よ。て居る。ば。使のあらへと門を開
て。うそとをばつまれば。使へ門入り。内よりとへて去にろ。
大署おみののばせたる者。公よびて。いづくれうゆりと
向かれ。ぐくアヘ。うら。一町いつまち。ごくり。て。そ。大膳おおぜん。軍
士ぐんし。人ひと。絆わな。そ。毛物けもの。い。おまふ。い。あく。毛け。がくく
う。う。化。ふ。ま。ゆ。に。大。ち。り。革。毛。馬。よ。あ。そ。紺。の。複。

不様棠花色れ衣着きよる者。緋蘭ひらんと。見て夏尾なつ絆
騰ひき。ふが。と。ぐれ。て。ま。と。み。え。作。ら。と。り。よ。大。若。い。と。く。そ
き。う。件。の。條。立。ち。り。ま。か。う。馬。へ。く。れ。う。た。大。芦。毛。み
う。彼。者。う。う。の。馬。よ。あ。そ。わ。う。と。う。ん。よ。作。う。よ
う。う。の。わ。ん。や。次。跨。う。が。我。ひ。よ。く。ふ。ば。ゆ。解。う。く
ら。う。と。用。い。ど。と。ど。く。に。う。と。が。う。り。ふ。う。べ。と。そ。取
き。う。と。て。ぞ。悔。み。け。る。か。く。て。金。立。い。る。よ。う。人。を。と。セ。て。
次。跨。う。が。う。り。ふ。ふ。案。あ。う。た。う。と。う。と。乃。糸。の。糸。
の。南。方。ね。魚。よ。川。居。と。う。と。告。う。れ。ば。う。う。べ。疾。う。と。そ。
毛。う。が。う。く。に。と。セ。う。の。毛。わ。ふ。ふ。う。ら。と。そ。毛。

乃とより。南のそぞく一文字へとすかうと。どうとかちた
あす責めをうち。ほ勝ひをとよしねば。わくとさりびて
やさあぐり。あるいはか縫とら縫とら。まうめねとれ
て我乃他のどりあすをあり。はしげるもと馬よみて報
うるまわう。柄とめげ御度とめげ。わくとくわくとさ
ゆくを。維茂主従とくんで斬伏退らし。ほ勝を射
ふくと首がまう。それまうとくには勝が家に押す
うつ。かといちくじ家の者どもへ。我君弑り勝をあう。
ゆくと帝をすがりとて。含めん設あて候とまう。
案へ相違して餘立う軍士うらふく。屋とよひ火をつ

向の考公射を斬倒して後人をつくほ勝が妻
と妻房一人を引出。テトとくに市女を公私をして馬よ
のせて。餘立が馬をうりあがく。かとべよとくとくよ
りそ。男公バ一人をあくび射をよそひられ。け縫
もうち射をうり。かく縫ねるて後。彦重たまがで
くると。大君が「前まよおて人をほうりて。ほ勝をて妻
ふいのうをとむをとむ。この事様とてやくすれば
けくろと。多くあくびをうりとつとをうる。大君
もうとびて「口をひく」とはをうけとて経つらわうと
りの事。うれすうれすう餘立が奉公とぞ。序をう。うり後

維茂東八ヶ園よ名を峯と
あひて御山とびすれどひまれ
きり其まれたま門を浦瀬宣^{モリミツ}
が子孫公家^{ウラヤシ}へ今此
あり事人かうりはくえうり也
按维茂墓越後國蒲原
郡小河莊岩屋村平等

按淮茂墓越後圓蒲原
郡小河莊岩屋村平等

三 平貞盛 欲害醫師一語

まばそれと薬よりて調合するや。貞盛且は
乃なま門尉維衡（いわく）と呼べ。け薬ふ本とせう披あ
りそへ後罪遁（のぞ）きぐ。ほ乃妻情姪（よめ）かう。幸ひ我ア
もまよふのどじ。維衡（いわく）それと因て。因そくしわふ
まけと相も得作（とせ）べ。貞盛（いわく）とおれ
事也。是不いおげゆ。葬送の用事（よご）やまとひ
たり。がくてなま門尉醫（い）師（し）が仰（おこ）せり。すみやかと
泣（なぐ）かづられべ。醫師（い）因て。我そと能（の）とが。アゲきと
て。館（やうらん）よりてまゆりをさきゆと向べ。貞盛（いわく）とおれ
方事（こと）の尉（い）が妻情姪（よめ）かう。幸ひ我ア

それへ行ひうもし。我流へ薬のきは。さくらもうへきて
つべ炊飯女乃懐妊して六月よからぬり生ませて。絆と
割てアラカル女子なり。わがわがおれと姫姪カミ
りうち。股と割て男子カミ。あと御て病カミ。金カミ。
此度の報謝とて。繫師カミにすれぬ薬米を送たゞ多く
あつて後カミだま門尉カミを呼て。我瘡カミ乃兒干カミにて金カミを
き。び繫師カミ披カミあさんとくカミびしれ。やややけもつと
きあきあきあき。やややけもつと。夷カミとあざやかとて陸奥カミ
國カミきつづれたり。もとまふ人カミをかくす。ねくとく
をひひぞれまつ。ややじ繫師カミと害カミして。くとく

ぐんとあくちりは道くわゆ。あて。おひこのがくとくらは
射^か義^{めい}とくべ^{とく}。左^さ手^ての射^のとやまとをす。ゆううのが
らんをくみぐれ^くお^く、強盜^{ごうとう}乃^の凶^{きのう}をもくして射殺^か
り作^より。大^{おほ}きうあてゆく^くをすくべ。其用^{よう}意^い仕^し人^{じん}
ととおきゆく。じそくふ醫師^{いじ}とももくめ事^{こと}み
えがくれをば。ふくすまくわづべ。醫師^{いじ}たよせ^{よせ}むらあそ。
りあけひきひて。やまけとくゑり。じくよに。左^さ
門^{もん}射^のがくもく。ようくまくをくどわくへつまく^く射^のく
判官^{ばんくわん}をくわんのまく。足下^{あしあ}はおも^こめ^こく。ばくろみく
ひきせきくとく。がくがくちうくつす。醫^い

呼りぬ柳くねじあく。かくて西門すぢうへ出立。かく
門尉がそへはるまへ。とて醫師馬すぢひそ。後者乃
ざくにたうて行きた。盜賊もまく。まへまで行判官代
をすせとひよるにてりて。一矢射度しけれ。後者
へちやびらうき。醫師へはれくまへよゑへひる。
左馬門尉の館よ歸て。射殺へるゆゑぬつひされば。貞盛
もろびて居あらか。醫師へきてまへりて。判官代
もろみれうべ。まへうて左馬門尉をよびて。まへ何と
もまう本ぞや向。左馬門尉醫師へちま。後者ひね
もとくとちばげて。馬よまくらふまくもまくもまく。



判官を射て死とせば。すげえやうだもん
とつて。さのらをあわてひどくてやまにうち。眞盛印を
乃總持^{スカヤ}れ股と割て。すかさんとつひ。其の身は今^ミ
あきとけくる醫師を害^{スル}さんとけじと。あゆゑを罪^ミ
あくびぢりき。それへ貞盛^{スル}が一乃郎を館^{スル}行^{ハシ}ひ
あゆゑをもろが國^{スル}とぞ。かく行^{ハシ}ひよこつて。かく行^{ハシ}ひよこつて。

今昔物語六

